

研究計画書

ゼミ名	高ゼミⅡ	チーム名	KYS10
タイトル	日本の電機産業はいかにして再生できるか？～テレビ産業を中心に～		
テーマ群	d) 国際家財 e) 産業・企業		
メンバー	井上 真吾 岩崎 光 江見 僚太 神田 昂 田家 早穂 瀧田 奈菜恵 松枝 沙弥 山中 沙織 橋本 隼 山口 朔美		
研究計画内容	<p>【研究テーマ】</p> <p>日本の電機産業が如何にして復活をとげ世界のトップレベルの競争力を回復することができるのかということです。主に日本の電子機器産業の没落と、それとは対称的に成長を遂げ世界シェアを伸ばし続けるサムスンの存在がありました。そして我々は主に液晶テレビから考えていきます。</p> <p>【研究の背景】</p> <p>液晶テレビ市場をみると、2006年の段階では、シャープは世界トップに君臨していました。しかし、液晶テレビのコモディティ化、急速な円高などのために輸出は低迷し、シャープの経営は急速に悪化しました。それに加えて、堺工場への巨額投資などの経営方針の迷走やブランド力にこだわり過ぎた結果、市場のニーズに応えられず、2013年には過去最大の約5000億円の赤字を計上しました。一方で台頭したのが、サムスンなどの企業です。</p> <p>以前までは、日本の電機産業は高い技術力を生かして世界のトップに立ち、高い技術力のみを追求することでその座を守り抜くことができていました。しかし現在では、高い技術力が顧客のニーズには直結せず、液晶テレビではサムスンなどの外国企業の波にのまれてしまっているのが現状です。</p> <p>【研究の目的】</p> <p>今後どうすれば、日本の電機産業がもう一度世界に再び咲くことができるのか。サムスンなどの企業を参考にしながら、日本の武器である高度な技術と、メイドインジャパンの確かな品質と保証を絡めた新たな武器を生み出すことはできないのか。これらのことを念頭において、今の日本の電機産業には、何が必要で、どう戦略を転換するべきなのかを研究しました。</p>		